

## 制御ファイルとSPファイルの 自動バックアップ取得設定（RMAN バックアップによる）

以下の設定を行うことによって、

RMAN バックアップで、データベースやアーカイブ Redo ログのバックアップ時に、同時に自動で**制御ファイル**と **SP ファイル**がバックアップされます

```
rman> CONFIGURE CONTROLFILE AUTOBACKUP ON;
```

### 自動バックアップ（RMAN バックアップによる）の出力先変更方法

制御ファイルの自動バックアップの出力先は、デフォルトでは高速リカバリ領域（初期化パラメータ `db_recovery_file_dest` で指定されたパス）もしくは、OS 固有のパス（高速リカバリ領域の未構成時）となります

以下のコマンドで、制御ファイルの自動バックアップの出力先を変更することが出来ます

```
rman> CONFIGURE CONTROLFILE AUTOBACKUP FORMAT  
      FOR DEVICE TYPE DISK TO '<出力先>/%F';
```

<出力先>には、%F 置換変数を含めるようにしてください

%F には、バックアップ時に Oracle によって一意に識別される文字列（c-67589521-20160923-01）が入れられます

例

```
rman> CONFIGURE CONTROLFILE AUTOBACKUP FORMAT  
      FOR DEVICE TYPE DISK TO '/backup/%F';
```